

関西大学環境都市工学部 学生員 ○奥山 明彦

関西大学環境都市工学部 正会員 秋山 孝正

関西大学環境都市工学部 正会員 井ノ口 弘昭

1. はじめに

これまで鉄道駅とまちの活性化について、駅利用者の行動など、経済活動の面から様々な指標を用いて研究が多数行われている¹⁾。

本研究では、鉄道駅周辺の環境は駅利用者が形成していると考え、環境という観点から鉄道駅と都市の発展について検討する。また、環境は景観といった視覚的要素から研究が進められているが、従来とは異なった環境を観測するために、音の風景であるサウンドスケープ概念を用いてより快適な都市環境の提案を行う。

2. 地域のサウンドスケープ調査

音風景デザインを行う前に、地域の音風景を把握するため、サウンドスケープの現地調査を行った²⁾³⁾。

2. 1 対象地域の概要

住宅街の中に位置し、地域住民の活動と関係が強いと予想される関大前駅周辺地域を本研究の対象とする。この地域は、鉄道駅とまちの実証的研究においては、歴史文化性は若干あるが、まちの活力は小さい既成住宅型の駅に分類されている。

関大前駅周辺地域の地図を図-1に示す。なお、赤枠内が調査対象範囲である。関大前駅の東側には関西大学とその附属幼稚園、中学校ならびに高校が存在しており、駅利用者は若い年齢層の利用者が多い。2000年に行われた第3回京阪神都市圏パーソントリップ調査でも利用者の多くは20歳以下である(図-2)。駅の北口と、そこから徒歩約450mの場所に位置する関西大学との間は学生が数多く利用するルートとなっており、商店が集まり、学生街を形成している。

2. 2 調査方法の概要

調査方法の概要を表-1に示す。調査は、学生5名で対象地域を踏査し、現地で地図に音風景の情報の記



図-1 関大前駅地域（地図出典：google map）

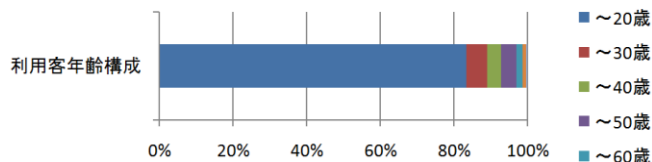


図-2 関大前駅の利用者年齢構成¹⁾

表-1 調査方法の概要

調査日時	2010年12月8日(水) 13:00～16:00
調査者	学生5名(男性4名、女性1名、全員4年生)
調査方法	対象地域の踏査による音風景の記録と、録音・録画による記録を行う。
調査手順	調査者にサウンドスケープの概念、記録項目の説明を行い、その後現地での踏査を行う。
実施方法	現地にて、持参した地図に音風景情報を記入。
使用機器	ICレコーダー、デジタルカメラ(録画機能)

入を行う。

踏査は立ち入り可能な範囲、主に道路で行い、私有地は対象外とする。なお、結果の整理と、音の公開を目的として、ICレコーダーとデジタルカメラにより録音、録画記録を行う。

踏査を行う前に、調査者にはサウンドスケープの概

念を理解させ、記録すべき項目について説明を行う。

調査日時は、大学の授業が行われている平日、昼の時間帯とした。なお、天候は晴れであり、雨音による音のマスキングはなかった。

3. 調査結果

調査の結果を整理するにあたり、一本の道路において、交差点で人や物が流出、流入し環境がそこを境に変化すると考え、道路を交差点や曲がり角ごとに区切った。なお、交差点が長距離存在しない場合、同一区間として扱うと音風景の遷移が記録できない可能性があるため、50m 程度ごとに区切る。

3. 1 ルート上における音風景の遷移

まず、対象地域において主要なルートとなっている関大前駅北口から関西大学正門までの間のルートについて検討を行う。この区間の音風景の様子を図で示し、音風景を視覚的に捉えることを可能としたものが図-3である。このルート上での特徴を駅側から順に示す。

(1)駅からしばらくの間は、移動する人と話し声が高密度で聞こえる。滞留する人の話し声は駅から離れた場所に多く分布。

(2)踏切周辺で様々な音が多くの方向から聞こえ、最も賑やかである。

(3)そこからは徐々に賑やかさは薄れるが、正門周辺になるとまた滞留する人の声が増え、賑やかになる。

3. 2 駅周辺地域の空間的な音風景の分布

次に、ルート周辺の音風景も対象とし、地域を面的に音風景から捉える。それぞれの区間をそのイメージごとに色分けし、音風景の分布を表現したものが図-4である。この図では、以下のことが言える。

- (1)駅から続く賑やかな空間が関西大学正門までのルートに限定されており、駅が関西大学と関係が強い。
- (2)そのルートの周囲で音風景は大きく変化しており、ルートとその周辺の境界は明確である。
- (3)地域住民の声で賑やかな場所は駅と正門との間のルートと大きく離れており、学生の利用空間と地域住民との利用空間には隔たりがある。

4. おわりに

本研究では、音から駅周辺の環境を分析することにより以下のような結果が、得られた。

- ・鉄道駅周辺の地域をこれまで重視されてきた視覚的



図-3 関大前駅と関西大学正門の間の音風景

(地図出典：google map)

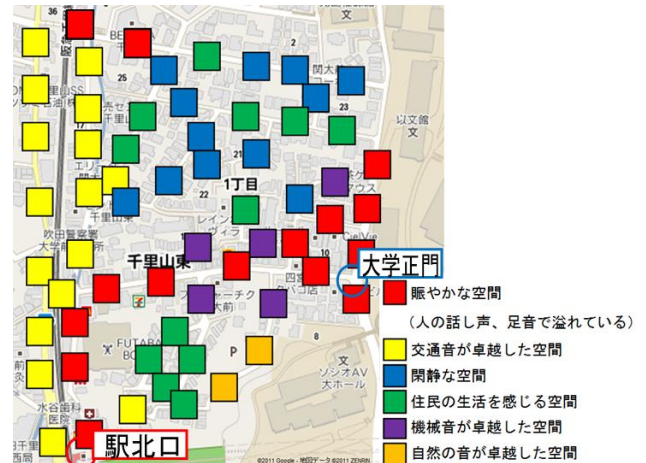


図-4 住宅地域の音風景 (地図出典：google map)

なものではなく、音の風景という面から記録、分析することができた。

- (1)特定のルート上における環境の変化を、音の面から観測することができた。なお、学生の空間利用は駅から若干離れた場所から集中していることがわかった。
- (2)地域の環境の空間分布を、音の面から分析することができた。また、データから学生と地域住民でそれぞれの利用空間は分かれていると言える。

また、本研究の課題として以下のものがある。

- (1)地域の音風景をより把握するため、その場所独自の音、標識音（サウンドマーク）を発見する。
- (2)サウンドスケープのデザインと、それに基づいた都市環境計画の提案を行う。

参考文献

- 1) 秋山孝正ほか：鉄道駅とまちの実証的研究，2008，p17-40.
- 2) 鳥越けい子：サウンドスケープ[その思想と実践]，鹿島出版会，1997.
- 3) R. マリー・シェーファー：世界の調律—サウンドスケープとは何か，平凡社，1986.